

[様式 1 1]

(対象事業：特別展「青野原俘虜収容所の世界～河合地区の近世・近代から現代～」)

事業名：特別展「青野原俘虜収容所の世界」

事業者名：小野市立好古館

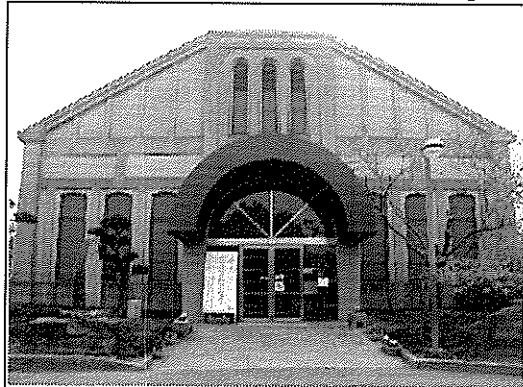
連携事業館名：

住所：兵庫県小野市西本町 4 7 7

TEL：0 7 9 4－6 3－3 3 9 0

FAX：0 7 9 4－6 3－3 4 6 2

HPアドレス：<http://www.city.ono.hyogo.jp/~kokokan/>



①施設概要

小野市立好古館は、小野市市制 4 0 周年を記念して計画され、平成 2 年に開館しました。小野市を中心に北播磨地域の歴史民俗資料の保存と公開を目的とし、常設展示のほか特別展や企画展、各種講演会や講座、音楽会なども開催し、市民文化の中核施設となっています。

②事業の意図目的

郷土の歴史を小学生中学生を中心とする住民自らが調査し、自分達の手で展示することにより、郷土への誇りを持ち、住民自身による町おこしの実現を図る。

また、その一環として、大正時代に第一次世界大戦のドイツ・オーストリア兵俘虜を収容した収容所の歴史を掘り起こして紹介した。

③事業概要

小野市内の河合地区北部 6 町(自治会)をとりあげ、それぞれの町の将来を担う小学生中学生を中心に、小学校、中学校、神戸大学とも連携して自分達の住む町の歴史を掘り起こし、その成果をまとめ、地域に残された歴史資料民俗資料を住民自らの手で展示した。

また、関連事業として、河合地区に隣接して設置された青野原俘虜収容所で開催された慈善音楽会の復元演奏会を神戸大学交響楽団の演奏によって再現し、青野原俘虜収容所の第一線の研究者によるミニシンポジウム形式の講演会も開催した。

④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他 (展示図録)

作成した報告書等

ビデオ ()
冊 子 ()
その他 ()

⑤参加者状況

参加者人数 延べ 4 0 4 5 人

内 訳	調査参加者	延べ 4 6 0 名
	特別展見学者	2 7 3 0 名 (好古館会場)
	地域展見学者	4 3 0 名 (コミセンかわい会場)
	音楽会参加者	3 1 9 名
	講演会参加者	1 0 6 名

(1) 事業の実施状況について

小野市では現在、協働と参画による町づくりを進めるため、明治時代に成立した行政単位である町・村ごとに6つの地区に分け、それぞれ地域づくり協議会が結成され、地区ごとにいろいろな取り組みが行なわれている。

今年度からの当事業では、この地域づくり協議会、神戸大学との協力も得て、地域の歴史を掘り起こし、それを発信していく事となった。

例年どおり、区長・役員をはじめ、老人会、子ども会の方々にも参加してもらい、子どもが高齢者から聞き取りを行なったり、現地を見に行くといった形で行なわれ、それには、好古館職員や神戸大学の研究員も同行して調査を側面から支援する形で行なった。

また、神戸大学との連携事業として、俘虜収容所での音楽会を復元した演奏会や青野原俘虜収容所の第一線の研究者によるミニシンポジウム形式の講演会など、充実した関連事業を行うことができた。

今回の特別展の大まかな日程は以下のとおりである。

3月15日 コミュニティセンターかわい（以下「コミセン」と略す。）地域づくり協議会、コミセン、好古館で打ち合わせを行なう。

5月12日 地域づくり協議会と小学校、中学校担当者への説明会を行なう。

5月15日 地域づくり協議会、小中学校、区長、神戸大学等の共催機関の代表者が鳴門市ドイツ館を視察する。

6月 2日 神戸大学の教官・研究員の河合地区史跡視察を行なう。

6月22日 対象地域の区長への説明会実施

7月17日 復井町役員説明会

7月19日 西山町役員説明会。青野ヶ原町役員説明会

7月23日 河合中町役員説明会

7月25日 河合西町親子説明会

7月26日 桜台役員説明会

7月29日 河合中町親子説明会

8月 2日 青野ヶ原町調査実施

8月 3日 復井町・西山町調査実施

8月 5日 河合西町調査実施

8月 8日 河合西町調査まとめ、復井町・西山町・河合中町調査実施

8月 9日 青野ヶ原町、河合中町調査実施

8月11日 河合中町中学生調査まとめ

8月12日 復井町・西山町調査まとめ

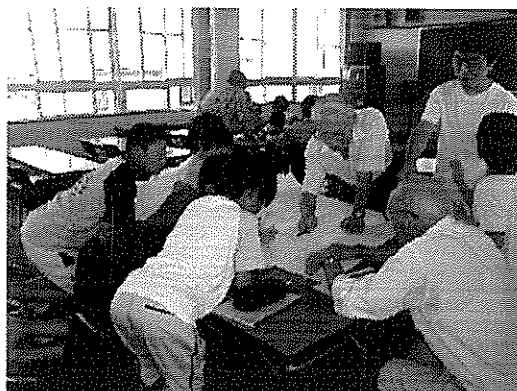
8月15日 桜台調査まとめ

8月18日 青野ヶ原町調査まとめ

8月22日 河合中町調査まとめ

8月24日 青野ヶ原町調査まとめ

9月 1日 加西市・姫路市方面現地調査



小学生による聞き取り調査

- 9月14日 地域づくり協議会地域展部会開催
- 10月 1日 特別展開会式（参加者数 119名）開催
- 10月10日 ふるさとをしのぶ音楽会～青野原俘虜収容所演奏会の復元～を開催
演奏曲目6曲、参加者数 319名
- 11月 5日 講演会「青野原俘虜収容所の世界」開催
講師 岸本 肇（神戸大学発達科学部教授）
藤原龍雄（姫路市立夢前中学校長）
福島幸宏（京都府立総合資料館）
司会 大津留厚（神戸大学文学部教授）
参加者数 106名
- 11月26日 好古館展示終了
- 11月30日 コミセン会場展示作業
- 12月 1日 コミセン展示開催。
- 12月18日 子どもによる調査の発表会
参加者50名
- 12月26日 コミセン展示終了
入場者数 430名
総入場者 3160名



展示会場のようす

（2）地域との連携について

過去の地域展と同様この企画のもっとも重要な部分は、住民の参加を得ることである。今回は、地区の町づくりの中心的な役割を担う地域づくり協議会を通して各自治会に働きかける事となったが、そのためスムーズにことが運ぶ反面、こちらの意思が十分に伝わらなかった一面もあった。これは今後の課題である。

また、今回は調査に神戸大学の協力があり、例えばお祭りの話などの時には、他の地域でも同じような行事があることや或はこのような面が他の地域と異なっているということを直接研究者から聞くことによって、代々引き継がれてきた行事への考え方が変わってきた。との意見もあった。

このようにいろいろな知識や経験を持つ者が意見を交換することによってそれぞれの町で行われている行事などが見直され地域の活性化に繋がっていくようになれば良いのではないかと考える。

（3）成果物について

この特別展では、小学生・中学生の調査成果を模造紙にまとめ、それが展示の1つの中心となる。これらの調査成果をまとめた模造紙は特別展終了後は各町に保管されている。

また、これまでの地域展では、特別展部分と子どもの調査成果の冊子を分けて作成し

ていたが、今回は保管のし易さを考慮して1冊にまとめた。

今回の特別展図録では、特別展部分を40ページ、子どもの冊子部分を60ページとし、子ども達の調査した成果の模造紙は子どもには思い出に残り、保護者などには親しみを持ってもらえるようそのまま写真版で掲載した。

なお、この図録は、調査の対象となった町の全戸に無償配布し、残部は交換図書として関係機関等へ配布した。

(4) 参加者の反応

調査

調査活動は、夏休み中に行なったため、特に中学生は、部活動との日程の問題から参加が難しい面もあった。しかし、忙しい時期にもかかわらず、積極的に参加してくれ。また、保護者や自治会役員の方も子供の調査に非常に熱心で、調査日以外にも児童・生徒を引率して、調査へ協力してもらえた。

調査の内容的では、児童・生徒・保護者ともに自分の住んでいる町の普段何気無く見ているものでも新しい発見があったり、今まで気付かなかったものが意外と多くあったことに驚いていたし、大学の研究者から直接話を聞いたことも良い刺激になっていた。

展示

展示では、特別展部分が約三分の一、小学生、中学生の調査作品と地域の歴史資料が約三分の二の割合で展示室に配置されたが、会場の広さの都合で、各町の歴史に関する歴史資料を小中学生の作品に関連づけて配置することまではできなかった。

来館者の反応は、地元に住む方でも第一次大戦の俘虜が身近なところで暮らしていたことに驚き、俘虜の生活が第二次大戦のそれとはあまりに格差があるため、さらに驚く。そして小学生中学生の作品が良くまとまっていることにも驚いていた。

また、青野原俘虜収容所に関しては今まであまり実態の知られていなかったため、市内や県外からも多くの見学者があった。

(5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

今回の特別展では、地域の埋もれた歴史を掘り起こすという点では以前と同じであったが、その中心に「青野原俘虜収容所」という中核になるテーマを設けたことで、特別展としてのメリハリができ、また、市外からの見学者も多く、河合地区の歴史をより有効に発信できたと思う。

また、地域住民にも今まで埋もれていた歴史を掘り起こしたり、今まで行なっていた行事を見直す機会となり、自分達の住む地域に誇りを持ってもらったようである。

そのもっとも大きな成果としては、来年度の地域展では「太閤秀吉と河合」というテーマで地域の歴史を掘り起こしたいという要望が地元からあがっており、来年度はこのテーマを中心に河合地区南部の歴史の掘り起こしを進めることとなった。このような動きが、住民による主体的な町づくりのきっかけになるのではないかと期待している。